

A班

- ・道路閉塞確率が高い道路が多く、避難できなくなる人もいるのでは。
- ・指定避難所以外の空き地、駐車場、テニスコートなどを、広域指定避難所（小学校など）に避難する前の避難場所として利用できないか。
- ・行政まかせではなく、自治会単位で事前に話し合った方がよいのでは。
- ・要援護者の把握は十分できているのか。

B班

- ・緊急時の避難所の候補地を探した。
→持ち主、管理者との話し合いが課題
- ・道路が狭く、緊急車両が入れない場合、緊急車両が待機するスペースを確保してはどうか。
- ・地域として、要援護者を把握する。
→要援護者のマークを表示してはどうか。
- ・初期消火が大切
→消火器を増やす。設置場所や有効期限を確認・周知する。

C班

- ・生垣を増やしたり、行き止り道路を減らしたりするためにはどうすればよいか、地域で話し合うことが大切。
- ・多くの人が参加できるように、夜間の避難訓練を行ってはどうか。

D班

- ・民有地を緊急時に使用するためには、日ごろの地域のつながりが大切。
- ・地主さん、家主さんに相談して庭を通らせてもらうなど、人の意識の問題が一番肝心になる。話し合いをしていく必要がある。

中学生

- ・家をブロック塀で囲んでいる人が、なぜブロック塀で囲んだのかということから考えなくてはいけない。
- ・消火器を増やす。実際に使ってみよう。
- ・避難所としても使える青少年広場を、残しておけないのは残念。
- ・行き止り道路を無くす。抜け道を有効活用する。
- ・緊急時にはここに集合するという目印があった方がよい。
- ・防災マップには、緊急時に使える井戸だけを表示した方がよいのでは。（停電の場合、電動式は使えない。水質検査はしているか。）



講評

● 良いところを活かして、もっと良くする

地域のまちづくり活動を長続きさせるためには、悪いところばかりではなく、良いところを見つけてそれをもっと良くしていくことが大切。そうすれば活動も楽しく続けられる。

● 様々な視点を取り入れる

どのような人でも、必ず見落としがある。女性の視点、子どもの視点など、色々な立場の色々な視点が大切。

● まちに良い変化をつくる

空き地に家が建ったり、公園が住宅地になったりと、まちには変化があり、その変化には良い面と悪い面がある。今回のような活動を通して、町が良い方向に向かっていくとよい。



第3回 防災都市づくりワークショップ開催

第3回ワークショップでは、「道路閉塞・火災をまちの視点から考える」というテーマのもと、地域点検、ワークショップ等を通して、地域の防災都市づくりについて考えました。第2回ワークショップに続いて、第3回ワークショップでも、中学生や浜竹一・二丁目以外の方々にも参加いただき、幅広い議論が行われました。



地域点検(まち点検)

地震による道路閉塞、火災による影響を考えながら、5班に分かれて地域点検(まち点検)を行いました。



<第3回WSの内容>

日時:1月24日[日]9:00-12:00

場所:松浪自治会館

参加人数:26名

★地域点検(まち点検)

★ワークショップ

- ・グループ討議



ワークショップの内容

グループ討議では、地域点検の結果を整理しながら、個人として・地域として、地震に対して強いまちづくりのために、何ができるか話し合いました。



